

## グローバル対応のPDFソフトを利用し 全社のセキュリティ対策を強化



「Adobe Acrobat Proで編集しているという事実が、顧客の安心感につながっていると実感しています」

技術本部 情報システム部 副部長（情報インフラ担当） 根上智幸氏

### 導入製品

- ・ Adobe Acrobat Pro

### 導入メリット

#### サプライチェーンリスク対応



国際規格に準拠したPDFソフトで  
取引先が求めるセキュリティ水準に統一

#### 効率的なライセンス管理



Microsoft Entra IDを使用して  
ライセンス管理の負荷を軽減

#### 多言語サポート



多言語対応の編集ツールで  
海外拠点とのやりとりがスムーズに

#### 安定的な運用



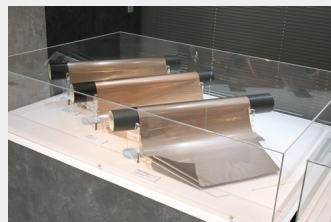
文字化けなどのPDFソフトに関する  
問い合わせがゼロに

### J X 金属株式会社

J X 金属株式会社は、銅やレアメタルを中心とした非鉄金属事業をグローバルに展開している。近年では、半導体材料などの先端素材を扱うフォーカス事業に注力し、世界的なシェアを拡大。半導体用ターゲットではグローバルシェア約6割、圧延銅箔では約8割を占めるなど、サプライチェーンにおいて重要な役割を担っている。



本社内にあるショールーム「SQUARE LAB」の様子



J X 金属が資源開発から圧延工程まで一貫して行っている圧延銅箔

J X 金属株式会社は、サプライチェーンリスクへの対応とセキュリティ強化を目的に、Adobe Acrobat Proを全社導入。海外拠点を含む全社におけるセキュリティレベルの統一と運用管理業務の効率化を同時に実現した。検討から導入後の効果や今後の展望について、情報システム部の根上氏と佐野氏に話を伺った。

### ■ 導入の経緯

#### インフラ整備に伴い、PDFソフトのセキュリティ強化を検討

J X 金属株式会社（以下、J X 金属）が直面していた課題の一つに、サプライチェーンリスクへの対応があった。技術本部情報システム部副部長（情報インフラ担当）の根上 智幸氏は次のように説明する。

「我々からの供給が停止すると、顧客であるメーカーの生産も停止してしまうサプライチェーンリスクがあります。最近では、ランサムウェアの被害により自動車工場が停止した事件もありました。今、このようなリスクを回避するための対策が業界全体で強く求められています」

こうした背景から、J X 金属ではセキュリティ対策の強化を進めてきた。その一環として、2021年秋頃から新たなインフラへの移行に伴い、使用するPDFソフトの全面的な見直しを実施。以前使用していたPDFソフトは国内での利用のみ想定された仕様だったため、海外拠点とのやりとりが多いJ X 金属は、セキュリティ面だけでなくグローバルに普及している点や信頼性の高さも重視してPDFソフトの比較検討を行った。

「法務部門などを中心にPDFを編集する機会は多いですが、以前使用していた別のソフトでは細かな文字まで編集できなかったため、個別でAcrobat Proをインストールしている人もいました。しかし各々が別のPDFソフトを使用するため文字化けやPDFの開封ができない事態がしばしば発生していました」（根上氏）

これらの要因を踏まえ、J X 金属はグローバル展開が可能で、高度な編集機能と強固なセキュリティを兼ね備えたソリューションとして、最終的にAcrobat Proの全社導入を決断した。



技術本部 情報システム部 副部長  
(情報インフラ担当)  
根上 智幸氏



技術本部 情報システム部  
佐野 隆次氏

#### USER PROFILE

##### J X 金属株式会社

<https://www.jx-nmm.com/>

所在地：東京都港区虎ノ門二丁目10番4号 オークラ プレステージタワー

創業：1905年

資本金：750億円

従業員数：連結 9,282名、単体 3,196名  
(2024年3月31日現在)

事業内容：薄膜材料事業、タンタル・ニオブ事業、機能材料事業、金属・リサイクル事業、資源事業



#### 詳細情報

<https://www.adobe.com/jp/acrobat.html>



アドビ株式会社  
〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2  
ゲートシティ大崎イーストタワー  
[www.adobe.com/jp/](http://www.adobe.com/jp/)

Adobe  
345 Park Avenue  
San Jose, CA 95110-2704  
USA  
[www.adobe.com](http://www.adobe.com)

#### ■ 選択のポイント

### ライセンス管理の効率と国際規格に準拠した信頼性

Acrobat Proを選択するにあたり、J X 金属が目にしたのは、ライセンス管理の容易さであった。

J X 金属では、グループ全体で7,500以上ものライセンスを管理する必要があるため、効率的な運用が可能なソリューションが求められていた。その点、Acrobat ProはMicrosoft Entra ID(旧: Azure Active Directory)の使用が可能であり、SSO(シングルサインオン)の仕組みを利用できるため、運用管理の負担を大幅に軽減できる。

技術本部情報システム部の佐野隆次氏は運用の効率について、次のように説明する。

「Microsoft Entra ID連携により、ライセンスの自動割り当てが可能になるのは大きな魅力でした。ID認証基盤で管理されているユーザーアカウントにライセンスが割り当てられると、自動的にAdobeの管理コンソールにもユーザーが作成されます。この仕組みにより、ライセンス管理が大幅に効率化されることが期待できました」

Acrobat Proのグローバル展開と信頼性ももちろん重視した。Acrobat Proは全世界で1,500万人以上のユーザーに利用されており、現在34の言語に対応している。

「以前使用していたPDFソフトとは異なり、Acrobat Proはワールドワイドで展開されていること、そしてPDFを開発したアドビが出しているソフトであることも安心感につながりました」(根上氏)

さらに、高度な編集機能もAcrobat Proを選択する決め手となった。具体的にはページ単位ではなく文字単位で柔軟に編集できる点が特に評価されたという。また、電子署名機能や墨消し機能など、ビジネス上で重要となる機能が充実している点も大きかったとも根上氏は振り返る。

#### ■ 導入効果

### 海外拠点まで含めた運用管理の負担を大幅に軽減

Acrobat Proの導入は、2022年の夏頃から開始。導入当初は国内の主要拠点を中心に約5,000ライセンスの配布が完了した。

「ライセンスの自動割り当てにより、約1年でとてもスムーズに導入を進められました。情シス側にかかる運用管理の負担は、以前と比べ大幅に軽減できたと感じています」(佐野氏)

その後、海外拠点や規模の大きい関係会社にも展開し、現在では約7,500ライセンスまで配布が完了。ライセンス数は、今後もさらに増加する見込みである。

今回、長期保存や印刷、エンジニアリングなどさまざまな用途に応じた国際規格として承認されているAcrobat Proを導入したことにより、J X 金属はPDFの取り扱いに関する高いセキュリティレベルを全社で統一することができた。これは、海外の半導体メーカーなどの主な取引先からの厳しいセキュリティ要件に応える上で重要な成果となった。また、Acrobat Proに搭載されているサンドボックス機能など、ユーザーが意識せずともセキュアに利用できる仕組みも根上氏は評価する。

「導入後、以前は度々あったユーザーからの問い合わせはほぼゼロに近い状態が続いていて、問題なく運用できています。PDFの編集はAcrobat Proでないとできないという社内からの声もあり、Acrobat Proの操作性や機能性の高さを感じています」(根上氏)

#### ■ 今後の展望

### Acrobat Proの機能を周知し、さらなる活用促進を目指す

J X 金属では、今後、未活用機能の利用を推進していく方針だ。

「現在、まだ十分に活用できていない機能がいくつかあります。これらを社内外でもっと使うことができるようになれば、J X 金属全体でさらなる業務効率化が図れるのではないかと考えています」(佐野氏)

そのためには、全社への機能周知が課題となる。現状では、PDFファイルの閲覧といったAcrobat Proの基本的な機能しか使用していないユーザーも多い。そのようなユーザーに対して、より高度な機能の使い方を周知し、さらなる活用促進を図るといふ。たとえば、J X 金属では全社員がスマートフォンを所持しているため、Adobe Scanのような機能を活用するよう促す考えだ。

J X 金属は、これらの取り組みを通じて、Acrobat Proの活用をさらに深化させ、業務効率化とセキュリティ強化を両立していく。Acrobat Proは、J X 金属のビジネス変革を支える重要なツールとして、今後もその役割を果たしていくことが期待される。

※掲載された情報は、2024年6月現在のものです。